

Central Alps

空木岳 千畳敷縦走



1997.10/10-11

大塚賢一

「10月の山をあなたどるなかれ！」

その言葉がぴったりをあてはまる山行となった。
今日は秋晴れ、しかし一転して次の日は真冬並みの
もう吹雪！と言う誰もが予測しない非常に厳しい行程
となったのである。無事に下山出来たから言うものの
自分でも生まれて初めての大変な経験で私の人生の
一ページに刻まれることはまちがいないだろう。
しかし、前半で思い切って檜尾岳から下山でき
ていたも事実である。

「山をあなたどるなかれ！」

メンバー

加藤一雄 50 オリーダー
大塚賢一 42 オ



装 備

テント・テントマット・ラジオ・コッヘル・バーナー・羽毛服上下・
カッパ・フリース上下・アンダー着替え・
ジフィーズ2ヶ・パン3.5食分・ラーメン2ヶ・スープ・珈琲・ウイスキー・缶ビール1本・つまみ

当初の計画表

10/10 姫路 --- 中央道駒ヶ根 --- 池山小屋 --- ヨナ沢の頭 2342 m ---
空 木避難小屋
10/11 空木避難小屋 --- 空木岳 2864.2 m --- 木曾殿越 --- 東川岳
2671 m --- 熊沢岳 2778 m --- 檜尾岳 2727 m --- 濁沢大峰 -
-- 島田娘 2858 m --- 宝剣岳 2931 m --- 中岳 2925 m --- キヤ
ンプ場
10/12 キャンプ場 --- 駒ヶ岳 2956 m --- 八合目 --- 濃ヶ池 --- 駒飼の

池---宝剣山荘---千畳敷ロープウェイ 2682 m---中央道駒ヶ根-

-- 姫路

実際の行程

10/10 姫路 --- 中央道駒ヶ根 --- 池山小屋 --- ヨナ沢の頭 2342 m ---
空 木避難小屋 --- 空木岳 2864.2 m --- 木曾殿越 --- 東川岳
2671 m --- キャンプ

10/11 キャンプ --- 熊沢岳 2778 m --- 檜尾岳 2727 m --- 濁沢大峰 --
- 島田娘 2858 m --- 千畳敷ロープウェイ 2682 m --- 中央
道 駒ヶ根 --- 姫路

と、見てもわかるように当初の計画表では初日は空木避難小屋泊まりだったのはずだが非常にハイペースの為に東川岳の少し先にかろうじてテントサイトを作ったのである。この日の行動距離は 15km はかせいでいただろう。最近は天候に不純が生じなければ 10km 以上は歩いている、常人の約倍のペースである。リーダーについて行くのがやっとである。

10日

加藤宅(ニューマンション)に3時集合のはずだったが、この日は珍しく3時になっても駐車場に現れないではないか?、私が時間を間違えたのかと時計を確かめたらやっぱり3時である、この頃のマンションは入り口がオートロックが掛かっている自由に入出入り出来なくなっているのにはいなかもんの私には驚かされたものである。目的の部屋に呼び出しをかけねば入り口が開かないのである。

中央道の駒ヶ根で朝食を買って駒ヶ根高原のふもと(845 m)に着いたのが7時30分であった。計画表の逆周りをしようと言うことで早速準備をしてロープウェイに乗る為にバス乗り場に行くが、なんと2時間待ちとのことで、やむなくあきらめて計画ど通りに実行をうつすことにする。バス停では何百人といたのが山のふもとまで少し歩いただけでだーれもいない静かなものである、そこで早速朝食の釜飯とおにぎりに食らいつくことにした。

池山尾根を歩くこと4時間。

12:10 **ヨナ沢の頭付近を過ぎたところで昼食タイムとした。**

これまでの行程では秋山の紅葉が美しいはずなのにほとんど針葉樹の杉や桧に囲まれてあまり堪能することが出来なかったのが**残念**であった。

しかし、それからは標高も上がって来て針葉樹と言えばアオモリトドマツぐらいしか生えてなく、先月に行った**白山が日本の庭園**ならばこちらは**日本の盆栽園**と言ったところか、それほどこれまた美しい登山道であった。だが、道は非常に険しく地図上でも**大地獄・小地獄・登降注意・迷いこむことあり注意**など、そう簡単には行かせてくれない。事実、迷い尾根にて遭難と言う石碑が2つもたっていた。

13:10 **空木避難小屋着2520m。このあたり一辺はダケカンバの群生林で水場もあり、ここから見渡**



す**空木岳2864.2m**は**ハエマツの緑**に包まれてひととき鮮やかにそびえ立っているのがなんとも言えないくらいに素晴らしい眺めである。

しかし、ここから**空木岳までは直登で80分、高低差300m**は非常に辛いものがあったが、**駒峰ヒュッテ**から見渡せる私にとってのいまだ未開の地である美しい**南アルプス連峰の山並み**は山頂付近に綿帽子をかぶっていたのが印象的であった。

14:30 **空木岳山頂着28642m。素晴らしい!、いつ来ても山の頂から見渡す360度の展望は素晴らしいことこのうえない、辛い目をして登って来たのが一度に吹っ飛んでしまう。北に宝剣岳2931m、東に南アルプス連峰、南に越百岳**



2613 m、**北西**に**木曾の御岳さん**が風はきついももの天候は上場で素晴らしい眺めである。

しかし、時刻は**15時**に近づこうとしているのにここから木曾殿越、東川岳方面を見渡してもどこにも**テントを張るようなサイトが見つからない**。ゆっくりとする間もなく大変な下り坂を降りて**木曾殿越で水を補給**して、これまた大変な登り坂を上がって、東川岳を過ぎたあたりで時計は**16時**を回っているのだからあたりでと決め込み、石をどかし、整地をしてなんとか2人用のテントスペースを確保するが、風がますます強くなり**2人がかりでやっと設営完了**、急いでテント内に逃げ込む、と言ってもモンベルの7人用ではないので非常に窮屈の上ないが・・・もし、この度人数が5人ほどでそのテントを持ってきていたらと思うと・・・お互いに考えたくもなかった。

一晩中ものすごい強風でテントは張り裂けそうなくらいに朝まで悲鳴をあげていたにもかかわらず、22時頃に小便に起きると空は限りなく星が出て**ミルクウェイ**までもはっきりと見渡せた。しかし・・・、

11日

6:30 テントの外に出ると、な、な、なんと**周りは霧氷**がこびりつき白銀の世界に近い状態ではないか、おまけに**視界は15 m**ほどときている。・・・気

温も氷点下2 である。昨日あれだけいい天気だったのに一夜明ければ真冬である。山の季節の移り変わりとはこんなものが、と驚きである。

早速、ジフィーズランチにとりかかるが、外に水を置いていたためにさすがに氷ついているのにはまいった。また、朝食前に加藤さんのミックスマツツを食べてか、高山病にかかってか、はたまたジフィーズを食べ過ぎたのか、急に酸欠状態のように気分が悪くなり、テントを出て立つともものすごい貧血で立っていられなく、どうしようもなくなり、吹雪の中でキジをうってテントにもどってガチガチと震えること30分、なんとか、気分も収まり、**強風の中をテントをたたみ9：00 出発。**しかし、いったいなんだったんだろうか？と首を傾げたくなるほどつらかった。

熊沢岳、そして檜尾岳へと稜線づたいに縦走するがあいかわらずの強風と時折雪に見舞われて視界が思うように見えない。なんとも言えない状態でいつしか2人の会話も無くなってくる。また、白山のように歩いてだけでは無く両手も使わなければならない所も何か所もあって、**手袋はしているのだが雪で濡れてしまっ**
て手がしびれてものすごく痛い、こんなことならスキー手袋を持ってくればよかったと反省しきりである。しかし、昼過ぎごろ少し、気温も暖かくなって0 になり雪も緩んできた、これから天気も回復傾向か、と思いきやなんの檜尾岳でここから下山か、それともあと2時間強風の中の稜線歩きか、選択したところ、私は風はここからは逆方向なので下山がいいのでは？、と言ったのだが加藤さんが、「しかし4時間かかるからなあ、」と言って稜線歩きを選択。これがなんとも言えぬ体験になったのです。

「ここからの稜線歩きは前にも来ているからそんなにたいしたことはない」と言っていたのだが、なんのことはない濁沢大峰あたりでは膝をついて登らねばならぬところや一枚の屏風岩が斜めになって15mほど続いてもまけに雪がついているのであわや足を滑らせば谷底に落ちかねないと言ったところが何カ所もあるのでいつい私も「ほんまにたいしたことはない稜線やね」とイヤミが出てしまった。でもこれが晴天なら全然たいしたことはないのも事実ではあるが・・・。

極めつけは、島田娘 2858 m手前の稜線で完璧な冬将軍の到来となり、風速 40 mが時折吹き荒れ、粉雪がマシンガンのように体中を容赦なく打ちつけてストックで体を支え3点確保でしばし身動き取れない状態が幾度となく続いた。お互いそばにいるが声など聞こえるはずもないので振り返り互いを確かめるのが精一杯で、またものすごい強風と雪でみるみるトレースがかき消されていってルート確認もままならない状態だった。岩肌は見ると見るうちに霧氷がこびり付き海老の尻

尾になっている。ここぞとばかりに無謀にもカメラを取り出してシャッターときっていた。

14:55 なんとか千畳敷ロープウェイ乗り場に着了いた。ここはなんともなかったかのように、バカみたく観光客でごったがえしていた、結局1時間待ちで乗ることができた。

しかし、あの稜線でもう15 m強い風に遭遇していたらと思うと・・・考えたくもなかった。だが、あの稜線で行くつかのパーティーを抜かして行ったのだが、どのパーティーもあの天候でまいつてしまっていたのだが、無事に下山出来ただろうか・・・あくる日の新聞にも遭難の記事は無かったのでホッとしたものである。

この度の出費は2人で32000円で内訳はバスとロープウェイが一人3000円あとは高速費と足代と食費である。

17時過ぎに駒ヶ根ICに乗り24時前に自宅に帰宅。風呂で山のアカを落としてから、ビールで無事の下山と空木岳に乾杯をして、静まり返ったキッチンで一人で悦に浸っていると、本当に今日あの厳しい稜線歩きをしてきたのか？・・・と、あまりにも今日一日のギャップが大きすぎ

る。しかしこれも現実なんだと・・・せまい日本、いやいやとんでもない、みんながまだまだ知らない未知の日本があるのも現実なんです。

